

連携先世界遺産：清水寺

京都の文化遺産とその保護～清水地域の防災への取り組み

本科目が取り組んだ課題・改善事項

座学・フィールドワークを通して、文化財の価値の重要性を学び、守るために、地域の災害危険性について考え、具体的な検討を行う。

■受講生

天野 慎也 (立命館大学・法学部・4回生)、石本 紗英子 (立命館大学・文学部・4回生)、遠藤 裕一郎 (立命館大学・理工学部・3回生)、大川 夏海 (立命館大学・国際関係学部・5回生)、亀津 太成 (立命館大学・法学部・1回生)、川嶋 紀乃 (京都女子大学・現代社会学部・3回生)、岸田 はるか (立命館大学・法学部・1回生)、古賀 仁 (立命館大学・法学部・3回生)、坂口 英美佳 (立命館大学・経済学部・3回生)、篠原 雄大 (立命館大学・法学部・4回生)、高橋 寛敦 (立命館大学・理工学部・4回生)、田中 慧 (立命館大学・法学部・2回生)、的場 汐音 (立命館大学・理工学部・2回生)、三島 吾朗 (立命館大学・法学部・4回生)、美堂 杏奈 (立命館大学・法学部・4回生)、渡辺 瑞加 (立命館大学・法学部・3回生)、DAN Jiayu (立命館大学・産業社会学部・4回生)、RYU Sia (立命館大学・文学部・2回生)、WANG Qiuyang (立命館大学・理工学部・3回生)

■TA (ティーチングアシスタント)

山口 奨 (立命館大学大学院・理工学研究科・博士課程前期課程2回生)

■担当教員

大窪 健之 (立命館大学・理工学部・教授)

活動目的・概要

世界文化遺産である清水寺は、年間400万人を超える参拝者があり、日本を代表する寺院です。本プログラムでは、この貴重な文化遺産を守るために取り組まれている活動や設備について、座学とフィールドワークで学びます。清水寺では文化財等を維持管理し、火災等の災害から守ることを主な目的として「清水寺警備団」が結成され、現在に至っております。

また、地震による大火から守るために、京都市が平成18年度から国宝や重要文化財が集積する東山区清水・弥栄地域において、地域力を最大限に発揮して防災力を強化する「文化財と地域を守る防災水利整備事業」を展開しています。フィールドワークでは、清水寺の文化財の価値について僧侶から説明を受け、実際に見学を行い、境内と周辺地域の災害リスクに関するグループ調査を行います。最後に「災害図上訓練DIG」を行い、文化遺産を核とした地域の災害脆弱性と対策について幅広い観点から考察し、グループごとに発表します。



フィールドワーク



設備見学



災害図上訓練



成果発表

◆主な活動

- | | |
|--|---|
| 2019.9.13 講義ガイダンス+歴防研究所の活動紹介 | 2019.9.15 フィールドワーク 1 *各地において事業の説明 (市民利用消火栓、高台寺防災公園、etc) |
| 2019.9.13 清水寺とその歴史について | 2019.9.15 フィールドワーク 2 *グループ毎に現地調査 (地域の災害危険性、防災資源、etc) |
| 2019.9.13 清水寺と地域の防災活動に向けた取り組み | 2019.9.15 災害図上訓練(実技・ワークショップ実施) |
| 2019.9.13 清水寺内の文化財建造物の保存修理について | 2019.9.16 災害図上訓練(発表+総括・講評) |
| 2019.9.14 清水寺とその災害について 1 (災害史を古文書から読み解く) | 2019.9.16 生徒同士の意見交換会 |
| 2019.9.14 清水寺とその災害について 2 (近年の災害とその対策:地震・土砂・火災) | 2019.11.2 成果発表に向けての具体化の作業 1 |
| 2019.9.14 境内見学、設備見学および実技体験 (防火水槽、ドレンチャー、放水銃等) | 2019.11.23 成果発表に向けての具体化の作業 2 |
| 2019.9.14 清水寺周辺地域の防災水利整備事業 | 2019.12.8 成果発表リハーサル |
| | 2019.12.15 成果発表 |

活動の成果

本講義を通して、受講生が明らかにした「本地域における防災上の課題」

本講義の座学・フィールドワークを通して、各班から【表1】の様な多くの問題点が挙げられました。その中でも特に「地震による建物の倒壊」「倒壊後の火災・延焼」が、より発生しやすく、重大な問題であることが認識されました。そして、これを基に災害図上訓練（DIG）を行った結果、初期対応を行うためにも、観光客の円滑な避難を実現させるためにも、「災害（火災）発生箇所の把握」を、どのように行うかが課題点として挙げられました。このように、受講生自身が文化財や地域を守るために、地域の災害危険性について、調査・考察を行い、新たな問題点も明らかにしていることが見受けられました。

－ 座学・フィールドワークから認識された本地域における防災上の課題 － 【表1】

- 1班：防火設備と水源が不十分、電柱傾斜倒壊による緊急車両交通不可、観光客・車両による混雑
- 2班：周りとの繋がりが徐々に薄くなっている、消火栓の場所をお店の人すら理解していない
- 3班：傾斜が激しい、現行の建築基準法の例外である木造住宅が密集、災害時に要援護者が多い
- 4班：防災訓練の参加者が少ない、非常ベルの普及率が低い、市民用消火栓が重くて扱いにくい



－ 災害図上訓練（DIG）により明らかになった防災上の課題 － 災害発生箇所の把握

本講義を通して、受講生が提案した「防災上の課題における対策」

本地域における防災上の課題【表1】に対して、本講義のフィールドワーク・災害図上訓練を通して、各班から【表2】の様な多くの対策アイデアが挙げられました。

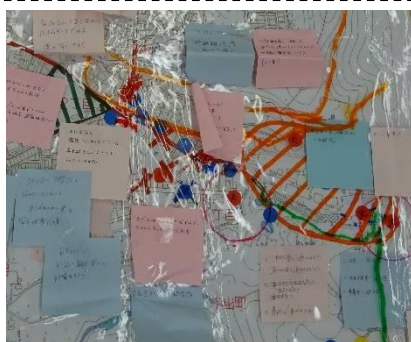
－ フィールドワーク・災害図上訓練から認識された本地域の防災上の課題における対策 － 【表2】

- 1班：電柱に補強材を設置、電柱の地中化、トランシーバーの配布、茶碗坂での雨水の配管の整備
- 2班：「消火栓使用デー」の設置、警備団による要援護者の把握、そのためのナースコールの応用
- 3班：土砂用防護柵の設置、スピーカーの設置、外国人観光客を対象とした訓練、希ガスを使って防火
- 4班：扱いやすい消火栓の導入、投てき消火器の設置、住民・従業員・消防のコミュニティの形成

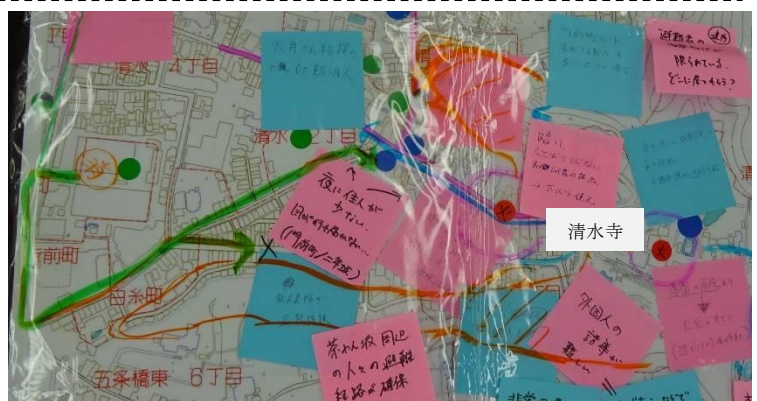
これらの事から、幅広い視点から現状を把握し、災害対策のあり方についての具体的な検討を行うことができる能力が身に付いたと考えられ、本講義の目的を果たしたものと思われま。



▲ 景観に配慮された消火栓



▲ 危険箇所をプロットした地図（災害図上訓練より）



▲ 提案された避難ルート

活動を振り返って

- 防災という視点で街並みを見て歩く経験はとても貴重であり、様々な意見を聞くことで考えの幅を広げることができました。普段では見ることでできない場所を見学することができたり等、稀な経験をたくさんすることができ、非常に有意義な時間を送ることができました。
- 話を聞くだけではなく実際に町を見て回って、消火設備の少なさに驚いたりであったり、住民たちが思った以上に消火栓の扱いについて知らなかったりと様々な発見がありました。
- 4日間の学びは文化財と清水の土地と防災をかけあわせて考えることで、避難方法の案が一気に狭まり難しくなり、すべてを最高の状態で守り続けることはたくさんの人の努力と意識のおかげであることを知りました。
- この授業を通して清水寺について詳しく知ることができました。清水寺が深刻な問題をたくさん抱えていること、その上で多くの対策を考え続けておられること、門前の人々の中で意識の差があることなど、普通に観光しているだけでは気づけないことをたくさん知りました。もっと多くの人に知ってもらいたいです。
- 私が住んでいる周辺でも水源や避難場所の確認をしておき、また災害時にはどのようなことが起こるかなどを考え私ができることを行い、防災に努めていきたいと思いました。火災や地震、雷などあらゆる災害への防災を見学したとき、清水寺を将来に残していくという強い意思を感じました。清水寺は日本の文化であり、貴重な遺産であるため、防災を行うことは非常に重要なことであると思いました。また、フィールドワークやDIGを通じて、防災の考え方を学ぶことができ、この授業の時間はとても貴重なものとなりました。この授業で学んだことは普段の生活でも生かすことができるため、防災へ努めていきたいと思いました。
- 地域の方が街・消防・学生との交流の中でさらにそれぞれの観点で防災意識を向上させ、自らこの街を護るため、傷付けないように普段から心がけるために、アクションを起こしていける環境づくりのお手伝いを少しでもできたのであれば、すごく意義あることであつたと感じます。今後、清水周辺地区を中心に京都、日本、さらには世界中に発信者として防災意識と施策を拡大していけたらと思います。
- 今回のフィールドワークを通して、社会の裏側を感じ取ることができました。世界文化遺産である清水寺と賑やかで華やかな印象の門前町には、防災の側面からみれば、脆い部分がたくさんあったことを学びました。災害大国でもある日本の国民の一員として、主体的にこの問題に取り組み、自分の故郷にも活かしていきたいと感じました。

担当教員からのコメント

大窪 健之

この演習は夏季集中講義としては6年目となり、世界遺産PBL科目に正式に加えていただいてからは3回目の合同発表会に臨むことになりました。最終日には各班からの成果発表と所有者様からコメントいただいた後に、教員の方で各種の提案内容を整理して一つの原案を示すことから、12月の合同発表会へ向けた議論を始めるのですが、やはり全員の思いを汲み取れていたのかという疑問が個人的には残りました。次年度に向けて、各班のアイディアの集約プロセスについても集中講義の枠内に組み込むことを検討したいと思います。学生さんたちの主体性に寄り添う演習プログラムへとブラッシュアップできればと考えています。

活動資料



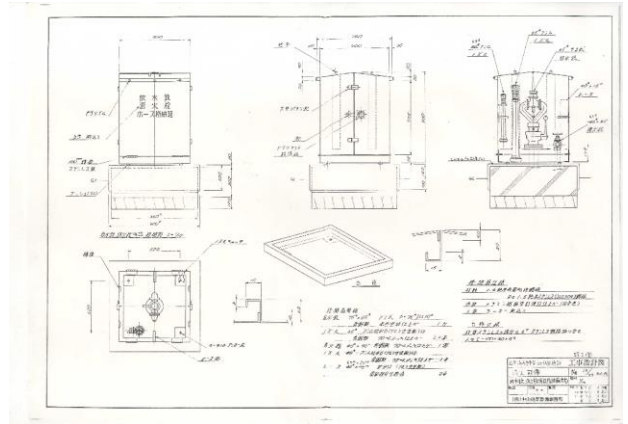
▲僧侶からの貴重なお話を直に聞き、文化遺産の価値と重要性を学んだ。



▲消防設備見学・実技体験



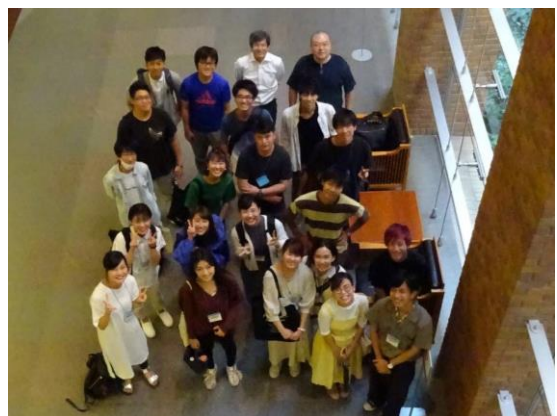
▲フィールドワーク



▲消防設備の図面



▲災害図上訓練により、地域の災害危険性を明らかにした。



▲最終日の意見交換会後の集合写真